



いわいしま通信

島の細道』紀行文集ができました！

(財)日本離島センターの離島人材育成助成事業の一環として、昨年募集した『島の細道』紀行文を集めた冊子が完成しました。

戦時中の祝島の思い出や、小さい頃の夏休みに過ごした祝島の記憶、そして昨年の不老長寿マラソンでの体験まで、祝島を訪れたさまざまな人々の島への想いが込められた、素晴らしい紀行文集になりました。作品に添えられている島の風景写真も、島独特の雰囲気を醸し出しています。紀行文募集に応募された全19作品が掲載されています。44ページ・オールカラーです。



『島の細道』紀行文集は、1冊500円(会員価格300円)で販売中です。ご希望の方は、祝島ネット21事務局までご連絡ください。

めざせ三角点！(Part2)

3月29日に遠足を行ないました。お正月の祝島最高点の三角点に続いて、今回は二つめの三角点・大遠三角点をめざしました。参加者は5名でした。

三角点の場所は、カタアの整理を通り過ぎてから、そのままずーっとまっすぐ進み、藪に入ってからしばらく行ったところ(あまり説明になっていませんね)えびす商店から歩いて約1時間半かかりました。大遠三角点からは島の南



大遠三角点



徐福の刻んだ石か？

東側の海が見え、正面には宇和島(ウヤシマ)がありました。

三角点からの帰りに、藪の中で奇妙な刻みの入った石を発見しました。重村さんから「あの辺に徐福が刻みを入れた石があるかもしれない」と聞いていたので、写真を撮って帰りました。写真は重村さんから山口県埋蔵文化センターに送られました。もしかしたら大発見？と密かに期待しています。

目次

島の細道紀行文集	1
めざせ三角点！	1
祝島の歴史を探る	2
地域交流シンポ	3
魚・さかな・肴	4
花*花クイズ	4
会員リレーコラム	5
こっこうの会	5
祝島懐かしの料理	6
離島人材育成事業	7
お知らせ&募集	8

島の二月 桜をそえて

泳ぐ鯨に花吹雪

(上関小唄より)

< 連載 > 祝島の歴史を探る(5) ~ 離島振興の歴史 ~ 蛭子 葉子

残念なことに今年3月、祝島小学校が休校になりました。祝島小学校は明治8年に創立開校し、大正・昭和・平成と時代を経て平成15年3月まで多くの卒業生を送り出してきました。創立百周年を迎えた昭和50年1月に発行された記念誌には歴代卒業生の思い出が綴られ、都会の学校では考えられないようなのんびりした学生生活が書かれています。特に生徒数の多い時代は活気があり、賑やかな子供達の声が今にも聞こえてきそうです。

そんな祝島の学校の歴史の中でも、特に興味をひかれるのが明治35年設立された祝島水産補修学校です。祝島には水産科という地名が残っていますが具体的に水産科がどういうものか聞いたことはなく、この水産学校のことにも民俗学者・宮本常一氏の著書で知りました。"離島の前進のために"というコラムの中で次のように書かれています。

「山口県の瀬戸内海側に祝島という島がある。周防灘の真中にある小島だが、家が600戸ほどひしめきあっている。この小さな島に600戸の家が、生計をたてているのは漁業のためである。この地は鯛縄が盛んである。しかし、ここで鯛縄が盛んになったのは大正時代に入ってからであった。島の人達はそれまで九州の捕鯨地へ出稼ぎに行ったり酒杜氏として出稼ぎしていたが、島の周囲が海なのに漁業らしい漁業もないのはおかしいということになって、3年間の乙種水産学校をたてた。それは無謀に近いことであったが、それでもその学校が10年近く続いた。小学校を終えて3年間学ぶ。海況について学



かつて水産学校が建っていた場所。
今でも「すいさんか」と呼ばれている。

問的に学びまた沖へ出た。漁労技術の先生は茨城県から来て、延縄漁法の技術を教えた。茨城は太平洋に面する。その海は深い。周防灘は内海ではあるが海が深い。茨城の漁具と技術は祝島に適した。学ぶ者は祝島だけではなく、島外からも来たが生徒が少なく、経費も続かず、後に仙崎の水産学校に合併して廃校になったが、それでも祝島だけでこの学校に学んだものが100人ほどあった。そして漁業の島にとって替わってくるのである。内海としては長続きさせたい学校であった。しかし小さい島の財力ではどうすることもできなかった。せっかくの意義ある試みも島が小さいというだけで挫折する例は無数にある。しかし今、この島は瀬戸内海で一番進歩的であろう。タイナベでは西瀬戸内海一の水上げを示している。青年の夢の実践が生んだ効果である。私は離島の青年にもこのような覇気と計画性があってもいいと思う。」

このコラムが書かれたのは昭和36年頃で子供の数も一番多い時期でもあり島にも活気があふれていたと思います。

宮本氏は昭和28年に施行された離島振興法の設立に関わり、離島の振興の為に簡易水道の敷設や電力供給に力を尽くされました。法が施行された当初は人口増加で苦しむ島民の生活向上のため、その後は過疎化対策とその性格を変えながら続けましたが、12年後の離島振興法について宮本氏はこう述べています。「田舎で貧乏な者が多少のお金を持つと、何はさておいても家の改築を始める。そして外見のよさを競う。離島振興の実情を見ているとそれに似た現象が極めて多い。家だけは立派になっているが、生産の方はけっしてのびていないという姿である。家を改築する前に、もっと再生産のための設備投資に本気になれないものか。」と苦言をさしています。

上関も他の市町村同様に過疎化に悩み、ついに原発を町は推進していますが、はたしてそれだけで過疎は食い止められるでしょうか。伊方出身の都市計画系の建築家とある飲み会の席で原発問題について話した時、彼は「原子力発電所ができて過疎を食い止めることはできない。むしろ弊害の方が多いのではないか。上関も原発誘致で町内が二分している。すでに伊方と同様、人間関

係すら崩れ、問題の根は深い。伊方には原発が建ちその補助金でたくさんの建物が建ったけど、僕はどうしても伊方に未来を感じることができない。」と言い、伊方には帰らず、全国各地を飛び廻ってワークショップを行いながら住民の手で作るまちづくりを提唱し続けています。補助金に頼ったまちづくりやまちおこしが果たして本当に豊かな生活を私達に与えてくれるのでしょうか。それはお金さえあれば何でも手にいれることができると錯覚させたバブルと同様に実体のないもので、宮本氏が一番危惧していた方向に向かうことになりませんか。この水産学校を立ち上げた時のよう

に島民自身の力で計画性を持って指導者の育成をし、生産基盤を作ることが今こそ必要な時かも知れません。無謀と言われてもつらぬいた先人の信念を私達も少し見習いたいと思います。それこそが宮本氏達が離島前進の為に願ったことであり「離島振興法ができたから島がよくなるのではない。島がよくなるうるとき法が生きてくるのである。」ということではないでしょうか。

原発誘致を宮本氏が生きていたら何というか聞いてみたいものです。

「地域交流シンポジウム」に参加しました

國弘 秀人

1月31日に大分県国見町の生涯学習センター「みんなんかん」(神舞で繋がり深い伊美にあります)で「周防灘30カイリ・潮の路県際間交流シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムは大分県国東半島と山口県周南地区の交流促進が目的で、国土交通省などが主催したものです。

私はシンポジウムの中のパネルディスカッション「海で繋がるまちづくり・ひとづくり～周防灘を介した交流と観光を考える～」にパネリストとして参加しました。パネリストは、両地域でまちおこしを実践している人ということで私を含めて2名ずつ、観光業界からJTB徳山支店長、コーディネーターは大分工大教授で都市計画が専門の佐藤先生、アドバイザーとして「海の駅」を提唱されている多摩大学の米村先生という面々で議論を行ないました。

今回のシンポジウムでは、両地域の交流のさが



会場となった「みんなんかん」
(伊美別宮社にも近い)

けとして、祝島の神舞がクローズアップされており、私はまず依頼されていた神舞の紹介を、プロジェクトで写真を映しながら行ないました。その後の議論では、両地域の交流促進の方法として、「互いの地域を体験できる手作り交流」「地元を案内できる住民ガイドの育成」「地域内の交通手段の整備」「情報ネットワークの活用」などが提案されました。

今回のシンポジウムは、地元の皆さんの関心も大変強く、300人を越える参加者があったようです。報道陣も沢山来ていました。また、私が神舞で繋がりのある祝島からやって来たということで、地元の皆さんには大変歓迎していただき、夜の懇親会では国見町の町長さんとも酒を酌み交わしました。できれば神舞以外でも交流を深めていけば、また新たな展開が生まれるのではないかと思います。



パネルディスカッションの様子

<連載> 魚・さかな・肴(5) ~ オツムギ・アブラメ~

木村 力

春から夏にかけて、磯で釣れる魚に「オツムギ」と「アブラメ」がいます。祝島で「オツムギ」というのは、図鑑では「アイナメ」で、祝島での「アブラメ」というのは「クジメ」ということです。「オツムギ」の小さいのは「アブウゴ」と言って呼び分けていました。祝島では「オツムギ」は出世魚というわけです。

「オツムギ」の方が大きくなります。島のおじさんが中の波止から、2kg位の「オツムギ」を釣って持って帰るところに出会ったことがあります。普通は1kg位までです。「アブラメ」は1kg足らずのしか見たことはありません。

「アブラメ」はまたの名を「モミダネウシナイ」というのだ、と祖母が生きていた頃、言っていました。稲の苗を作る頃が「アブラメ」の旬で、稲の苗用の粕をこの「アブラメ」と交換してしまうくらい旨いと言うことのようにです。夏には味が落ちます。「オツムギ」の名前は鮎(つむぎ)の模様から来たのかなと



オツムギ

思っていました、自信はありません。「オツムギ」は大きな石の陰や穴の中に潜み、「アブラメ」は藻の中に潜んでいることが多いようです。色もそのような保護色になっています。

8年くらい前の春、姫島に行ったとき、旅館の夕食に「オツムギ」の刺身と汁(うしお汁)が出ました。「アイナメ」と言っていたように思います。姫島での呼び方は確認していません。

<連載> 花*花クイズ(4)

橋部 好明

前回の花*花クイズの答えは、「ナズナ」でした。和名は撫菜。

春の七草の一つ。摘み草にして、食用や薬用にするのは、冬越しのロゼットの時です。



茎の先に、柄のある白色で小形の十字状花を多数つけます。実の形が、三味線を弾く「ばち」に似ているので、ペンペン草ともいいます。ロゼットとは、本来バラ(ローズ)

の花を真上から見た花形のことで、葉にもその呼び方を使うようになりました。オオバコやタンポポ、ノゲシ、ハルジオン、コマツヨイグサなど、地表すれすれに芽が出て、茎がほとんど伸びないまま、葉が次々と出てきて、ロゼットを形成し、冬の寒さから芽を守ります。ナズナは、通常はロゼットが次第に大きくなって、そして暖くなった2~3月頃に、茎が急速に延びて、一斉に花が開きます。しかし時には、ロゼットで過ごす間もなく(したがって小さいながら)一人前に花をつけ

ることもあります。乾燥した土で発芽し、ロゼットの成長なくとも、花をつけ、子孫を残そうとする雑草の強さが心を打ちます。

異例の花を撮したので、名前の特定に苦労しました。

さて、今回の花の名は?

早春から開き始め、行者堂の参道のあちこちに、特に群生し、心癒してくれます。



会員リレーコラム(5) ~ 薬師 雄三さん ~

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。第5回目は薬師雄三さんの登場です。



会員の皆さん、こんにちは！薬師雄三です。祝島中学校昭和52年卒業です。本会では副会長の國弘さん(失礼ながら、普段は"ひでと"と呼び捨てです。)をはじめ、8人の同級生が活躍しています(本当は一部活躍、あとは潜伏状態)。本会の構成人数から言えば、最大グループかもしれませんが、一部の人を除くと、盆、正月に"ここぞ"とばかり集まって、酒ばかり飲んでいる輩がほとんどです。せめて帰島したときくら

い、故郷のため、本会のために何か出来ることはないかと話し合えば良いのにと個人的には思うのですが、つつい貴重な休みなので昔話、世間話等で盛り上げてそれで終わってしまいます。

ところで、先頃、祝島小学校の休校式が行われ、128年、延べ5241人の卒業生を送り出したと聞き、その数の大きさに驚いてしまいました。平均すれば約40人/年ですが(ちょうど私たちが小学校に入学する時、そのくらいでした。)、聞いた範囲では、百数十人、3クラスの年があったとのこと。我が家の娘が4月から小学校(歴史は祝島小の半分くらい)に入学するのですが、今年は新生が多くて、3クラスになる可能性があるらしく、あの狭い島内に、かつては、娘の入学する都会の小学校と同じくらいの児童がいたという事実に感嘆せずにいられません。これだけの卒業生がいるのですから、全国には祝島の出身者、血縁者が多数、潜伏していることは間違いありません。この潜伏している人達が故郷のことを少しでも考えて頂けるようになれば、これは本会にとって誠に喜ばしいことです。全国にちらばった潜伏状態の人達に生まれ故郷の念を呼びおこして頂くこと、それが本会の目的の第一歩ではないかと思っています。皆でひとつになって知恵をしぼり、故郷のために頑張りましょう。

最後に(自己紹介になっていませんが)、皆さん、よろしく願います。

< 薬師雄三 >

柳井植物研究会・こっこうの会」の皆さんが来島

橋部 好明

4月20日に「柳井植物研究会・こっこうの会」のメンバー17名が、山口県植物学会・南敦会長を指導者に、来島して三浦湾一帯の植物観察を行い、ケグワ、コッコウ、ミヤコジマツツラフジ、アコウの木など、祝島ならではの植物を堪能されました。またの来訪を心待ちにしています。

余談・・・この会は、最初「こっこうの会」という名称でしたが、観察申し込みする際に「ニワトリに關した会ですか?」とよく尋ねられるので、この度「柳井植物研究会・こっこうの会」と改称されたそうです。



< 新連載 > 聞いてみん菜・食べてみん菜』

祝島懐かしの料理 (1) ~よもぎめし~

祝島・食べてみ隊

郷土料理というものは、各地の特産品であったり、またどこにでもある食材だけど、作り方や味付け、また呼び方が違うという、その地域ごとの先人の知恵の結晶であり、その上に後の人の知恵が重なって残されてきた、いわば知恵の固まりかと思います。そうして小さい頃からその味に親しんできた懐かしい味でもあり、また思い出でもあります。

祝島にもたくさんの郷土料理があり、思い出と共に次世代に伝えていくためにレシピ(?)を綴ってまいります。

なお、家々によって作り方や味付けが違うこともあるかと思いますが、またどんな行事に使われたのかその由来や名前の由来など、さらにその料理にまつわる思い出・エピソードなどどんどん寄せていただいて、いつか出尽くしたあたりで楽しい集大成を作っていけたらいいなと思います。

第一回目はとりあえず「よもぎめし」を記してみたいと思います。

母から聞いた「よもぎめし」の作り方ですが、うる覚えというか本当にこれでいいんだろうかと言いつつ作ってくれました。他の祝島の方にも聞いてもらったのですが、あまり変わりはないようですので書きとめます。



よもぎめし

<よもぎめし>

材料：よもぎ、餅、さつまいも

(母は餅とさつまいもを同量にしました。)

作り方：

(1) 熱湯に重曹をいれ、その中にきれいに洗ったよもぎを入れて、2~3分ゆがく。

(2) よもぎをざるに移して水を流す。

(3) 鍋に乱切りしたさつまいもを入れ、その中にひたひたの水を入れて、いもに火が通る少し前に餅を入れ、さらに小さく刻んだよもぎを餅の上におき、餅が煮とけたら、火を止めて蒸らしてまぜる。好みに砂糖や少量の塩を入れてもよい。

うまあけえ、
作って
みんさい。



食べながら、お餅なのになぜ「よもぎめし」なのか疑問に思い、母に「間違ってるんじゃないん？」と聞いてみましたが、「自分の知ってるのはこれだ」と。もし間違っていたり、他の作り方があれば教えてください。

ちなみに会社で写真を撮っていたら、近くにいた人に「げー」って顔されました。「おいしいのに」って言いながら食べさせてあげませんでした。

下関の我が家の近くのよもぎを取ってきて作ったのですが、母はあの独特のにおいが無いと言って、やっぱり祝島のよもぎでなくっちゃと、よもぎが柔らかいうちに祝島に帰ってこようと言っています。

(財)日本離島センターの離島人材育成基金助成事業に関する報告

<平成14年度事業に関して>

平成14年度には「『島の細道』紀行文募集およびガイド養成事業」を実施しました。事業の内容につきましては既に会報等でもお知らせしていますが、ここで整理して報告します。

(1) 『島の細道』紀行文募集

- ・4月から12月まで紀行文を募集し、19作品の応募がありました。
- ・応募作品の審査を行い、優秀賞3点、特別賞2点を
- ・紀行文集を製作し、島内および町内の公共施設等に配布しました。

(2) ガイド養成事業

- ・植物学者の南先生をお招きし、祝島植物観察会を2回開催しました。
- ・ガイド実習として、島の子供達を連れて小祝島の植物観察会を行ないました。
- ・島の山道の整備活動を行ないました。

3月に実施報告書を作成し、日本離島センターに報告しました。その結果、当会より申請した助成金(実際にかかった経費の半額)34,536円全額が支給されました。

<平成15年度事業に関して>

平成15年度の助成事業に応募するため、昨年末より皆さんから意見を出していただき、「神舞神事伝承のための人材ネットワーク育成事業」という内容で申請書を作成し、2月25日に受付窓口である上関町役場に提出しましたが、「『島の細道』紀行文集の中に、原発問題に触れた記載があり、政治的に問題がある」という理由で、上関町長、助役、担当課長が決済せず、日本離島センターに申請書が提出されないという非常に残念な結果になりました。

当会としては、それぞれの作品は作者が島の日常から受けた感想を綴ったものであり、むしろ行政機関はその内容を素直に受け止め、町政に活かすべきだと考えており、上関町長宛てに、謝罪と次年度以降の申請書については円滑な処理をするよう求める抗議文を提出しました。この件は県内の新聞各社やテレビ局などでも報道されました。日本離島センター側も、「紀行文集は島おこしの趣旨に沿っており、問題はない。」というコメントを表明しています。詳しい経緯等は、祝島ネット21のホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

尚、「神舞神事伝承のための人材ネットワーク育成事業」については、助成金がなくても出来ることは進めていく予定ですので、皆さんご協力よろしく願います。(内容は次ページで紹介しています。)

(おことわり)

いつもお楽しみいただいております

『Let's Learn English in Iwaishima!』は、作者多忙のため今回はお休みさせていただきます。



活動紹介

「神舞神事伝承のための人材ネットワーク育成事業」について

来年は神舞年です。神舞という伝統行事を伝承できる人材をできる限り多く育て、来年の開催準備のボランティア集めを効率的に行なえるような仕組みを作るために、下記のような事業を行なう予定です。

神舞神事準備・運営マニュアル作成

講習会開催（竹組み、苔編み、五穀栽培など）

ホームページによる情報発信や人材募集

メールマガジンやFAXによる情報発信

人材データベースの構築

皆さん、ご協力よろしくお願ひします。

お知らせ & 募集

「祝島不老長寿マラソン」参加者 & ボランティア募集！

第3回祝島不老長寿マラソンを下記の要領で開催することが決定しました。ランナーとして、大会ボランティアとして、皆様のご参加をお待ちしています。

[開催日] 平成15年8月10日(日) 8:00スタート

[種目・参加費] 13km(3000円) 2km(2000円)

[参加賞] オリジナルTシャツ、祝島特産品等

[募集人数] 合計100名

[参加募集期間] 5月12日～7月23日(必着)

詳しくは下記の大会ホームページをご覧ください。

「祝島不老長寿マラソン」ホームページ

<http://www.kakekko.com/marathon/iwaishima/>

ボランティアとしての応募はいつでも受け付けます。國弘か木村まで。



Yahoo! eグループに祝島ネット21としてグループ登録しました

Yahoo! JAPANの提供する無料グループウェア「eグループ」に祝島ネット21としてグループ登録しました。メッセージの履歴が残るメーリングリストや共有フォルダ、予定表、投票機能などがあり、会員間の情報共有等に活用していきたいと考えています。

祝島ネット21の会員限定で、利用するにはユーザー登録が必要です。登録がまだの方は、下記のアドレスにアクセスして、ユーザー登録をお願いします。

「Yahoo! eグループ 祝島ネット21」

<http://www.egroups.co.jp/group/i-net21>

編集後記

1月に第4号を発行して、やれやれと思っていたら、もう3ヶ月過ぎて第5号の締切りがせまってしまい、またまた締切りギリギリになってしまいました。3ヶ月なんてすぐに過ぎてしまいますね。でも、この3ヶ月間にいろいろなことがありました。世界的な話題では、イラク戦争、SARS騒動など。身近なところでは、祝島小学校の休校式、臨時便「龍丸」の登場、上関町長選挙など。時の流れがどんどん早くなっているような気がするのは歳のせいでしょうか？ そういえば、この3ヶ月の間に41歳を迎えてしまいました。

さて、今号から新しい連載コラム『聞いてみん菜・食べてみん菜』が始まりました。記事を書いてくれるのは、祝島ネット21の中にできた別ユニット「祝島・食べてみん菜」の皆さんです。モーニング娘の中のミニモニみたいなものでしょうか？（年齢は違うけど・・・失礼！）皆さんも、こんな感じで別ユニットを作って楽しく活動してみたいかがでしょうか。やはり、「楽しむ」ことが長く活動を続ける秘訣だと思います。

次号は7月発行の予定です。お楽しみに。

（編集長：國弘秀人）

事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。ご意見・ご感想・身近な情報など、お気軽に投稿してください。

祝島ネット21の活動費は、会員の皆さんの会費でまかなわれています。この会報を会員の募集活動にもぜひお役立てください。

《発行》 祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>



新しい臨時船「龍丸」